



正名集田の対面と集
一集田の各の海と集

八

慶安太平記

卷之八

慶安太平記卷之八

一正名集田の対面と集

一集田の各の海と集

正當世に對する事

去程に忠信の神が、海に正當が其の依り禁回
入魂に正當も引合を成し思ふれば其便をばむ
日ころまを廻り名流の流をよまに礼敬し御養
此の世に對する事とて大眼指をさし禁回が先あり
たしし業内を打節禁回が方ころ客中り是方
る世に對する事とて忠信をよまに流なく芝田の中り
る世に對する事とて忠信をよまに流なく芝田の中り
忠信の中りる業内を打節禁回が方ころ客中り是方
真に對する事とて忠信をよまに流なく芝田の中り

もふるふかしく忠信をそねふもつたる道も非を
ふらぐ身重と尊し信を憲と軍とふらぐもの其際
家康公あしく徳のい之列に推す入らば遊り道と成
りて平れたり指すこと念佛より百廻を多集り長登
巻と入るゆのき見入のいし機とあし家康公と推し合
し徳名安國院底道多る長と所を百廻を多推し
尊む長より百回過し念佛より一過すの勢とさし入
りぬる世務とんすの遊引退し其後推しあはれ御
百回過し念佛念佛と徳と信と云下を法ゆらんを
久らふんとは依り首なる松年又百回利御足是と利
字を法遊新とすもまた家康公八を列法和と城
入らばつしつた福とささ丁梅とさす備とあし大舞火
と焼と勢と依り湯浸食と三指はる湯衣花衣
さすはあはれ御と申田が侍たれ山原より豊田後條
程方勢門具に押号うこが前め毎あり焼海門押
たりとつあて法所と三指とさす法徳ゆらんはれ
ひそはつり入るゆゆとさすはるゆゆとさすはる
が法所とて法所と備し申遊とささし九死一生と徳
家康公推し海と老と遊りやと遊しあはれ生害たら
んとはつらさえと名地法ゆらりやありを申遊と

道中長くして天下と保るべき所 家産をまら
河正と名を以て流るる一筋の川なり 水は清く
おと也 其外清先代村正の川と流生金^ちなり 此
は村正の川と徳川家^の川とを言ふなり 此の昔代元
村正の川と上河田を言ふは道中家言たるなり 是は
茶研^の名に附し名附たり 此の昔代元村正の川と
を言ふなり 此の昔代元村正の川とを言ふなり 此
の昔代元村正の川とを言ふなり 正言が深淵なるを
し流るる名を言ふなり 今も此の川と今も此の川
と流るる名を言ふなり 此の昔代元村正の川とを言ふなり

唐安太子記巻之九

- 一 唐國神志^の并^り廟^の名^を言^ふ
- 一 正言 知法を止るなり
- 一 正言 佛法の海を渡るなり

明正九年

尾書紙

子正月日

吉田右衛門平兵衛右衛門

云程一筆之思慮存り智謀之徳正當かたはし
 又徳と云ふにまねて申す事由は指し入魂之勢
 正當かたはし卒に集りて謀報海刻に地よりし
 其頃ハス飯之氣の後たるを正徳に隠す所切し
 正集りてし卒に四を輝きと客に流浪人を流し
 正其時實元永十七年と云ふに眞忠深正當かたはし
 正其時客に流浪人を流しよりし増す守正神
 正其時客に流浪人を流しよりし増す守正神
 正其時客に流浪人を流しよりし増す守正神
 正其時客に流浪人を流しよりし増す守正神
 正其時客に流浪人を流しよりし増す守正神

入程の世も〜
 此種も眼のまわりの死生〜
 馬少〜
 胸あけ〜
 九陽忠臣〜
 さらんたの〜
 方高〜
 更なる〜
 四一〜
 され〜
 意ま〜
 中筋〜
 神〜
 万程〜
 字の〜
 俗〜
 成〜
 別〜
 草〜

引^ひこ^ひと^ひあ^ひを^ひ性^{せい}母^ぼと^ひ大^{だい}新^{しん}の^ひら^らが^ひ似^にし^ひる^ひ廊^{らう}を^ひ是^ぜと^ひして
牛^{ぎゅう}車^{しゃ}九^くと^ひあ^ひの^ひと^ひま^まを^ひテ^ひ中^{ちゆう}に^ひ平^{へい}た^たる^ひ廊^{らう}を^ひ性^{せい}母^ぼと^ひ自由^{じゆう}
高^{たか}し^ひ方^{かた}と^ひ志^しし^ひ徳^{とく}の^ひあ^ひく^ひ喜^きと^ひ我^わと^ひ云^いふ^ひ月^{げつ}の^ひあ^ひを^ひ拒^くす^ひ此^{こゝ}
廊^{らう}を^ひ別^{べつ}の^ひ言^{ごん}に^ひは^ひし^ひ且^{かつ}後^ご平^{へい}昌^{しょう}信^{しん}府^ふに^ひ於^おて^ひ自^じ書^{しよ}す^ひ内^{ない}に^ひ廊^{らう}
若^{わか}僧^{そう}之^の長^{ちやう}と^ひ捕^{とら}へ^ひし^ひま^ま敷^{しき}多^たく^ひ切^きり^ひ高^{たか}の^ひ指^{さし}し^ひま^まの^ひ自^じ書^{しよ}
也^やと^ひと^ひ此^{こゝ}に^ひ先^{せん}年^{ねん}の^ひ系^{けい}と^ひま^まの^ひ高^{たか}の^ひ言^{ごん}と^ひ高^{たか}の^ひ言^{ごん}の^ひ目^め
止^とま^ひる^ひ也^やと^ひ捨^{すて}て^ひま^まと^ひこ^こや^やと^ひ死^しす^ひし^ひと^ひ云^いふ^ひ此^{こゝ}に^ひ高^{たか}
の^ひ子^こ孫^{そん}也^や此^{こゝ}に^ひ妻^{さい}と^ひ持^{もち}て^ひお^おは^ひれ^ひ相^あひ^ひの^ひ言^{ごん}と^ひ持^{もち}て^ひま^まの^ひ妻^{さい}
を^ひと^ひい^いふ^ひ女^{にょ}と^ひい^いふ^ひ是^ぜと^ひ書^{しよ}す^ひし^ひ我^わの^ひ自^じ書^{しよ}す^ひと^ひ云^いふ^ひ此^{こゝ}に^ひ高^{たか}
の^ひ是^ぜと^ひ云^いふ^ひ云^いふ^ひ正^{せい}昌^{ちやう}今^{いま}年^{ねん}に^ひ捨^{すて}た^ひ高^{たか}の^ひ言^{ごん}と^ひ教^{きやう}と^ひ是^ぜと^ひ

正昌勿法と止り

同年九月三日の^ひ仍^{いん}命^{めい}も^ひた^たの^ひ牛^{ぎゅう}也^や海^{かい}松^{そう}等^{とう}持^{もち}
向^{むか}ふ^ひと^ひ神^{かみ}家^けの^ひ海^{かい}の^ひ身^みと^ひ車^{くるま}と^ひ登^{のぼ}る^ひ身^みと^ひ流^{なが}
浪^{なみ}と^ひ波^{なみ}と^ひ舟^{ふね}と^ひ復^{かへ}送^{そう}と^ひ云^いふ^ひ勿^な法^{ぽう}と^ひ流^{なが}と^ひ月^{げつ}と^ひ夜^よ
世^よ法^{ぽう}と^ひ勿^な法^{ぽう}と^ひ勿^な法^{ぽう}と^ひ勿^な法^{ぽう}と^ひ勿^な法^{ぽう}と^ひ正^{せい}昌^{ちやう}
つ^つと^ひ見^みる^ひと^ひ我^わ今^{いま}の^ひあ^あ子^こ人^{にん}の^ひ門^{かど}を^ひ子^こ持^{もち}て^ひ名^な持^{もち}
印^{いん}と^ひ心^{しん}易^いや^ひ仕^し今^{いま}業^{ごう}魁^{けい}と^ひ今^{いま}の^ひ其^{その}言^{ごん}と^ひ世^よと^ひ
何^{なに}と^ひ云^いふ^ひと^ひ善^{ぜん}と^ひ先^{せん}年^{ねん}の^ひ所^{ところ}を^ひ持^{もち}て^ひ國^{くに}を^ひ位^ゐと^ひ此^{こゝ}
教^{きやう}を^ひ云^いふ^ひ云^いふ^ひ今^{いま}の^ひ言^{ごん}と^ひ云^いふ^ひ又^{また}此^{こゝ}に^ひ何^{なに}と^ひ

初をさうり正祥とていふるを自ら神と下
 をりてんそめ初信ん今ちちのここと成
 なる男のまを信親法と地地まるとして天
 燈花^{てんげ}とれし中世の多をしの信長とけ介
 獨信^{ひとり}なりとてそのまを信とてのまを信
 登りしとて信道^{しんどう}とて由信^{よし}なりとて
 貴信^{きしん}とて何國^{なにくに}の人も信とて我とて
 初をさうり正祥とて信とて信とて信とて
 為信^{なり}とて信とて信とて信とて信とて
 奉^{ほう}信^{しん}とて信とて信とて信とて信とて

初をさうり正祥とていふるを自ら神と下
 をりてんそめ初信ん今ちちのここと成
 なる男のまを信親法と地地まるとして天
 燈花^{てんげ}とれし中世の多をしの信長とけ介
 獨信^{ひとり}なりとてそのまを信とてのまを信
 登りしとて信道^{しんどう}とて由信^{よし}なりとて
 貴信^{きしん}とて何國^{なにくに}の人も信とて我とて
 初をさうり正祥とて信とて信とて信とて
 為信^{なり}とて信とて信とて信とて信とて
 奉^{ほう}信^{しん}とて信とて信とて信とて信とて

彼僧は是れ中へ入合を命じ合はれしは是れ
何れにありて川に流されたりしは是れ
ちよれにありて船に乗りては是れ
そらうにありて何れにありては是れ
別れにありて何れにありては是れ
坂を登りて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ
三人にありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ

正當佛法の留依

云程にありて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ
是れにありて是れにありては是れ
何れにありて是れにありては是れ

仍りもくわくをくゆるしきれむ延慶入付に候
しつらふ紀列に申候る人々をさるるに依り
何事も聞かしてしるすれむ切ふ母に法を云ふ迄
しつらふ向釋法に依候しきり正當改付より
在釋しきり疾く新し。釋取九より身り無物を見えて
貴公に今又佛法に依候と仰事と仰らん之れに
どしとくく若正言言うゆき初新し非を誠く
を治んく佛に依候と仰んく平と仰んく
む其あるに世にありと云ふに世にあり候事
故に事あると云ふむと云ふは世にあり候事

是の如く申す候事と云ふに世人自らいふ事
言ふに違む申す候人言ふに違む自然に天下大
年し夜よりを治らんく佛に依候と云ふに
云ふれむ九言より候候と云ふに候候と云ふに
乃ち世に道に候候と云ふに候候と云ふに

是の如く候事

嘉永七年
三月

田代氏

